

根室市へ猛暑による熱中症対策など要望

7月31日、党根室市議団は根室市に「猛暑による熱中症対策等に関する要望書」を提出しました。

今夏は根室市内でも例年になく厳しい暑さが続きました。7月下旬には30度を超える真夏日が5日間連続し、釧路・根室地方にも熱中症警戒アラートが発表。臨時休校も実施されました。こうした中、熱中症の受診や救急搬送の件数が増加したそうです。

一昨年の酷い暑さから根室市は公共施設や保育所等でエアコン設置など進めてきました。しかし冷涼な道東・根室市でも今後「猛暑」となる年が増えていくことが懸念されます。

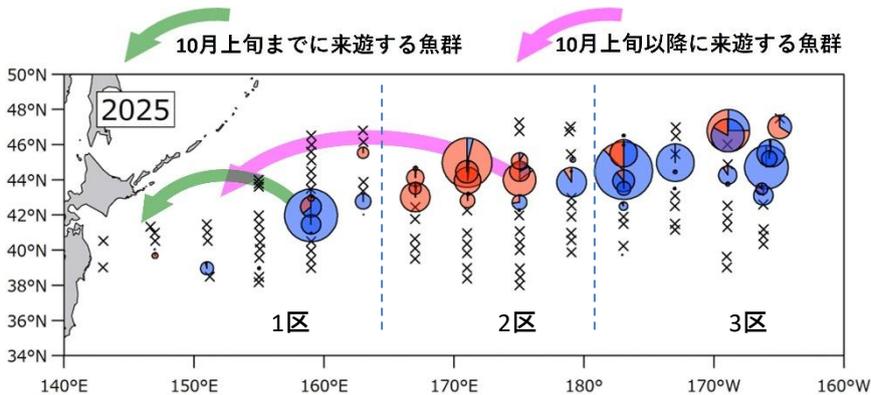
7月30日のカムチャッカ半島の大地震の津波警報で多くの市民が地域会館、図書館や市役所等に避難しました。学校の屋内体育館での避難所でも冬期間の寒さ対策と夏の暑さ対策は双方で検討が必要です。こうした内容を含め、市民の命と健康をまもるため、市と市教委にさらなる対策の推進を要請しました。



8月3日 北方領土返還要求根室市民大会

- 要請した内容は、
- ① 熱中症アラート等が発表される状況下では災害対応と同様に市職員関係機関が連携し高齢者等への安否(健康)確認を推進すること。
 - ② 国の「空調設備整備臨時特例交付金」等を活用し、学校体育館(避難所)への冷房設置を行うこと。
 - ③ 市営住宅へ網戸を設置すること。
 - ④ 市立保育所、市立学校はじめ公共施設で配備されている窓エアコンやスポットクーラーの効果について検証し、各施設ごとに本格的なエアコン導入が必要かどうか再度見直し検討すること。
 - ⑤ 市内医療機関、介護、福祉施設等におけるエアコン設置状況の把握と必要に応じて市の支援策を検討すること。
 - ⑥ 低所得者に対するエアコン設置、整備に関する助成を行うこと。
 - ⑦ 消防はじめ屋外で活動する市職員の熱中症予防に有効な装備・資機材等を充実させること。
- の7項目です。
- 要請に対して石垣市長は「それぞれ教育委員会や担当課と協議していきたい」と答えていました。
- 引き続き必要な対策を市、国、道に求めていきたいと思えます。

2025年6月～7月「サンマ資源量直接推定調査」結果 (当日の配布資料の一部を抜粋)



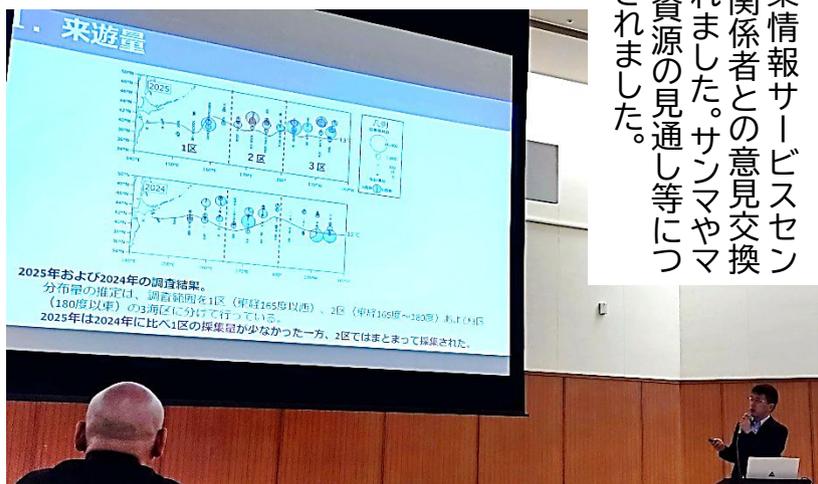
漁期の来遊量は昨年並みか サンマなどの長期魚海況予報が示される

8月5日、一般社団法人漁業情報サービスセンター主催の水産業講演会「水産関係者との意見交換会」が市総合文化会館で開催されました。サンマやマイワシ、サバの海況・漁況予報や資源の見通し等について、市内水産関係者等に解説されました。

根室の経済を支えるサンマ漁。15年連続で日本一とのこと、昨年は6年ぶりに2万トンを超えました(2018年は4万3950トン)。

2024年の全国の水揚量は、約3.9万トンと2年続けて前年を上回りましたが最盛期2008年(34万3225トン)の11%程度で低い水準が続いています。

8月10日のサンマ棒受網漁の一斉解禁を前に、今年も詳細な海況や今後のサンマ漁況、マイワシ、マサバの状況について市内水産関係業者などに説明、意見交換会が行われたので聴講してきました。



水産研究・教育機構 水産資源研究所の富士氏は「2025年度サンマ長期漁海況予報」について、6-7月に実施した調査結果では一区(上図の西側)の採取量が少なかった一方で、二区(上図の真ん中あたり)でまとまって採取されたことから、今年の漁期の来遊量は昨年並みの低水準となること。漁期の前半は昨年を下回り、後半は上回ること。1歳魚の体重は昨年を上回っていること等の予測が説明されていました。

このほかマイワシの動向は増加傾向だった資源量が2022年以降は減少しており、2024年に急減した産卵量は2025年も低い状況であること。また懸念されているマイワシの小型化について8年前に比べて平均体長が3.1cm減少、平均体重は約半分に痩せていること等が報告されていました。(エサ不足が主な原因と考えられています)

さらに近年は中国・ロシアによるマイワシの漁獲が急増しているそう、今後の資源量の動向が注目されています。